

第3回少人数教育推進検討委員会の概要

1 報告事項

- ・第3回少人数教育推進検討委員会の概要について、事務局から説明。

2 議題

(1) 25人学級導入の効果等の検証について

- ・学力調査（算数）の結果概要について、事務局から説明。

(2) 中学校における少人数教育の在り方について

①方向性について

- ・方向性（案）について、事務局から説明。

○ アクティブクラスの拡充による少人数教育の実施

中学校における少人数教育の在り方については、アクティブクラスを拡充することを目指す。

中学校では、発達段階や教育活動の特性、教科担任制の授業形態などを踏まえると、学級数を増やさずに一定の基準のもとで教員加配を行うことで、生徒の関心・意欲や特性に基づいた主体的に学ぶ力の更なる伸長を図ることができ、少人数教育の質を高められる。

教員加配を進めるにあたっては、教員1人あたりの生徒数を少なくすることができるよう、国の基準を上回る基準により、当面の間、原則短時間勤務の教員加配を実施する。

(主な意見)

- ・小学校での25人学級の成果を踏まえ、中学校では国基準の35人を上回る少人数による学級編制が望ましいと考えるが、学級数が増えることによる教員負担の増加を避けるために、アクティブ加配と教員確保を要望したい。
- ・欠員解消と柔軟運用を前提に、中学校の特性を踏まえた少人数教育の推進を支持したい。
- ・方向性の大枠はよいが、学校の実情に応じて、学級増も含めた柔軟な少人数教育の運用を求め続けていきたい。
- ・今後、中学校での少人数教育の効果検証について、アクティブ加配の効果を検証し、生徒の主体性の育成につなげていくべきである。など

②課題について

ア 管理職による学校マネジメントについて

イ 探究的な学びにおける教員の指導力向上について

(主な意見)

- ・加配教員の教科選定・配置、学級を分けた場合の少人数指導、学習支援員や複数担任制の活用など、校長のビジョンと柔軟なマネジメントが必要である。
- ・小中連携による地域の子どもたちの学力状況の共有、少人数教育で育まれた資質・能力を中学校・高校の探究的な学びへとつなぐ視点、校長会や総合教育センターを活用した情報交換などが重要である。
- ・探究的な学びの指導力向上については、教員自身の探究経験の乏しさを踏まえた研修を行う必要がある。
- ・近隣の学校間の授業参観や学び合い、教科等の見方・考え方を生かした問い返し、教員の自己研鑽の時間の確保などが重要である。など

(3) 報告書案の作成に向けた骨子項目について

- ・報告書骨子(案)の構成について、事務局から説明。